

## 案 件：第 1 回お互いさまのまちづくり協議会 議事録

日 時	令和6年6月3日（月）午前 10 時 00 分～午後 11 時 30 分
場 所	豊橋市役所 東館 8 階 東 82 会議室
参 加 者	委員 15 名 事務局 長寿介護課 市民協働推進課

### 議事

#### (1) 令和6年度の委員について

- ・事務局より説明

#### (2) 令和5年度 取組評価シートについて

- ・事務局より説明

### － 意見 －

- ・委員： 他団体評価については、温かい言葉をいただいた。今まで民生委員との連携がとれていなかったので、下条校区と牛川校区の役員を中心に会議を開き、連携をしていこうという話になって、5月には研修会を開催した。他団体評価には、「自治会連合会の代表として他地域にもお互いさまのまちづくりを広げてほしい」というコメントもあったので、情報伝達などは行っていきたい。
- ・委員： 自治会、老人クラブ、民生委員がそれぞれに関わりをもって地域を盛り上げていかなければいけないと感じた。だが、地域差があるのが現状。今後、民生委員の研修会では、地域・自治会・小学校との連携をどのようにしていけば良いかということ話し合っていく。
- ・委員： 老人クラブの理事会で周知を行っているが、自治会長が1年で変わってしまうなど、地域での連携は難しいと感じる。お互いさまのまちづくりに関する意識は高まっていると感じている。
- ・アドバイザー： 災害時要支援者については、個別避難計画を立てなければいけないという話であったと思う。計画を立てる際は、自治会や民生委員の力が必要になる。さらに地域包括支援センターも役割を担っていくと思う。その際に自治会や地域包括支援センターのネットワークがつけられていくのではないかと。今回の他者評価で意見を真摯に受け止めて、良い意見は取り入れる必要がある。今後は他者評価の点数をつけるのはどうか。
- ・委員： 民生委員は、地区の民生委員ごとに地域の特色に合った研修をしている。研修内容も地域差があるので、どのようにすればよいか考えている。見守りボランティアについては、見守ってほしい本人の承諾がないと登録できない。一人暮らしの高齢者でも見守りなしで自由に暮らしたいという人がいるため、見守りボランティア数はあまり増えていない。
- ・委員： 昨年度の居場所は5箇所しか増えていない。目標は令和3年度からの6年間で55団体創出することであるが、努力をしても結果として結びつかないと目標達成は難しいと思う。51校区の中で居場所がない校区が8ある。今年度は圏域ごとの交流会があるが、その際に自治会を巻き込んでいく必要がある。みんなで意識改革をしながら、やっていきたい。
- ・事務局： 昨年度、市としてはまちの居場所づくり活動者交流会を開催したり、スマホ教室&ゆかた着付け教室を開催したりすることで担い手創出に力を入れた。

- 委員： 55団体創出に関しては頭打ちのような状態であると思うが、市としてはどう思うか。地域社会学的には、都市部と過疎部で違いが出ているのではないかと思う。
- 事務局： コロナ禍の時は、自分たちが居場所をやらなければという声が届いていた。そのためコロナ禍では居場所数が増加していたのではないか。居場所も最近多様化しており、趣味に特化した居場所も増えてきていると感じる。
- 委員： 他団体評価では、情報発信の仕方などを評価していただいた。地域福祉活動計画も活動を細かく記載するため、見直しなどを考えていきたい。担い手の人員確保については、人がいないことを実感している。地域づくりのためには地域の皆さんに興味をもってもらうことが大切なため、興味をもってもらえるような企画をしていきたい。福祉サポートセンターは、重層的支援体制整備事業において、縦割りを繋ぐような役割を担う。CSWを設置した場合、どのような役割を担うか分からない面があるため、豊川市なども参考にしたい。
- アドバイザー： 重層的支援体制整備事業については、大変なことも多いと思う。講座などを開催する際、二重行政になっていることがある。社協でしかできないことが必ずあるので、二重にならないように密に市などと連携をすることが大切。
- 委員： シルバー人材センターは60歳以上の就業したい方に仕事をしてもらっている。元気な高齢者が集まっているので、何らかの形で地域に貢献したいと思っている。
- 委員： のびるん de スクールなどの放課後の話に関しては、地域の高齢者が地域で働いているのか。
- 委員： 仕事先は地元とは関係ない。働きたい場所で働いてもらっている。
- 委員： シルバー人材センターの会員も仕事の中で地域との繋がりをもっと感じてほしい。子どもたちとの繋がりもつくれたら良い。
- 委員： 令和5年度は旭校区の夏祭りのひとつのコーナーを中央包括で担当した。内容については自治会と民生委員と一緒に考えて行った。ひとつの企画をみんなで考えたのは大きな成果だと思う。東田校区では認知症の啓発について地域ケア会議で話し合い、練り歩きをすることになった。この企画も自治会や民生委員と協力した。今後は東田校区全域で行っていきたい。令和5年度に行われたまちの居場所づくり活動者交流会に来ていただいた方にアプローチして、実際に居場所を立ち上げた。交流会の場はとても良かったと思う。今年度も圏域ごとの交流会があるため、一本釣りで活動者を誘っていきたい。今年度は昨年度の活動をレベルアップしていきたい。
- 委員： 昨年度から広域的な地域ケア会議に生活支援コーディネーターの方が出席してくださるようになり、地域づくりをやりたいができない人に声をかけてくださり地域づくりが進んでいると感じている。だが地域の中で温度差があるというのが現状。南部圏域では、生活支援コーディネーターを中心に、自治会や民生委員と連携できていると思う。
- 委員： 「東部圏域の他の地域包括支援センターの取り組みの紹介をしてほしい」というコメントがあったが、東部圏域全体の取り組みも今後紹介できたらと思う。圏域ごとの交流会もとても楽しみにしている。市の取り組みにどのように関わっていくかを考えている。
- 委員： 担い手が不足しているという問題があるが、圏域ごとに交流会を行う中でマッピングを提示し、居場所がたくさんあることを示したい。地域の自治会、民生委員、生活・介護支援サポーターにも参加をしてもらいたい。まずは活動を知ってもらいたい。
- 事務局： 生活支援コーディネーターと市で作成したマップがあるので、交流会で活用できたらよい。

- アドバイザー：生活支援コーディネーターの方がいるからこそ、繋がる部分が多いと思う。地域包括支援センターも頑張っているの、伸びるように前を向いて取り組んでほしい。気付きのない人を気付かせることが大切なのではないか。自治連合会の会議でもお互いさまのまちづくりについてアナウンスしてもらえると嬉しい。モデル地区でも良いので、教育、福祉などから様々な関係者を集め、話し合ってもらおう地域円卓会議を開いてみてはどうか。地域の企業なども呼んだら良い。
- 委員：学校、自治会、民生委員など様々な関係者が集まって、会議をしている地域もある。
- 委員：岩田校区では行っている。各校区で違いはあると思うので、地域の課題に合った取り組みをしていくべき。高齢者が自分事として問題を考えてほしい。
- 委員：各校区の自治会長に期待される役割は多岐にわたる。自治連合会の会合は年8回ある。実際は市役所の様々な部署からの伝達事項が伝えられるため、それだけで時間がひっ迫してしまう。講習会などをする時間はあまりないというのが実情。先進的な取り組みをしている自治会からの研修会などがあると良い。
- アドバイザー：自信をもってそれぞれの取り組みを進めてほしい。

### (3) 令和6年度における取り組みについて

- 事務局より説明

#### － 意見 －

- 委員：スマホ教室の2時間というのは、時間帯が決まっているか。
- 事務局：自治会が希望した時間帯に行く。
- 委員：牛川校区の自治会でスマホ教室をやってもらえたら。
- 委員：行う予定でいる。
- 事務局：様々な自治会で全16回行う予定。マンツーマン形式で高齢者5人、若者5人を想定している。
- 委員：スマホ教室を実施した自治会さんから、意見や感想などをもらい、次年度以降の材料にできたら良い。
- 事務局：アクティでも取材を考えている。

### 3 その他

- 令和6年度 第2回協議会の日程について  
令和6年9月27日（金）10時00分～